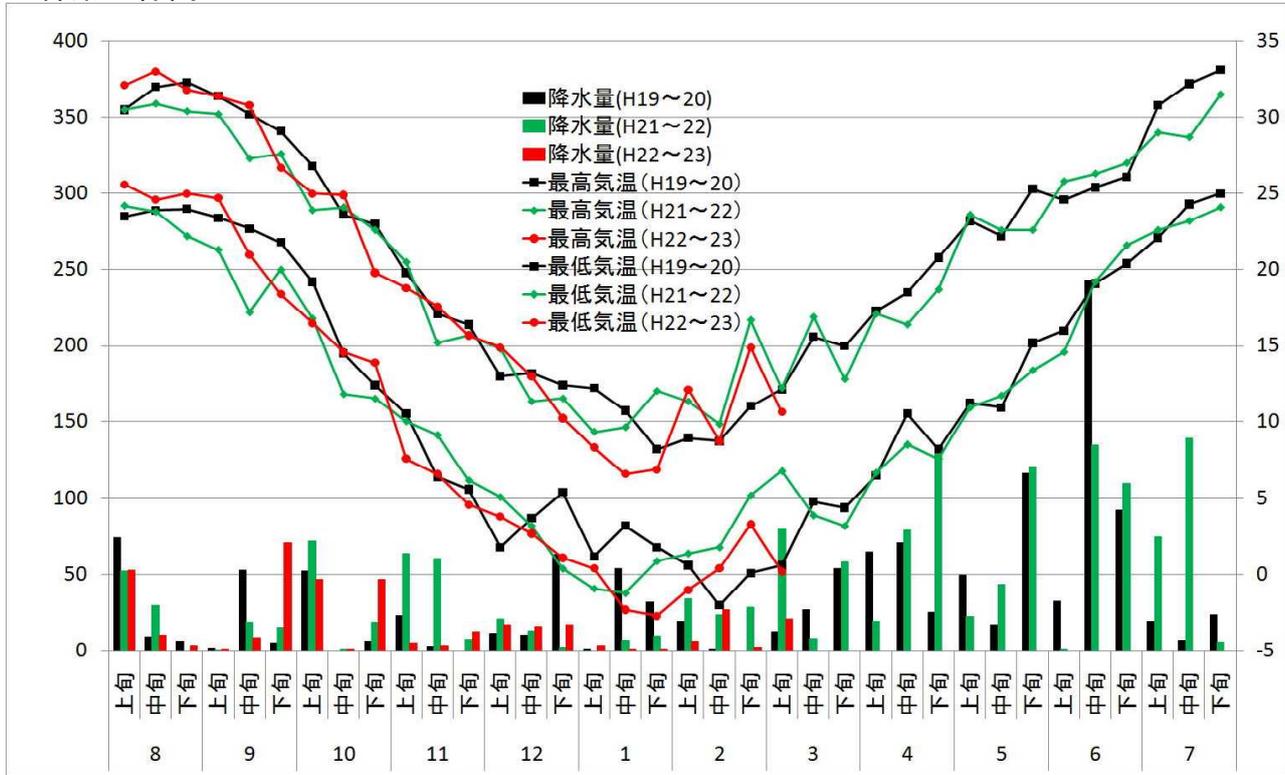




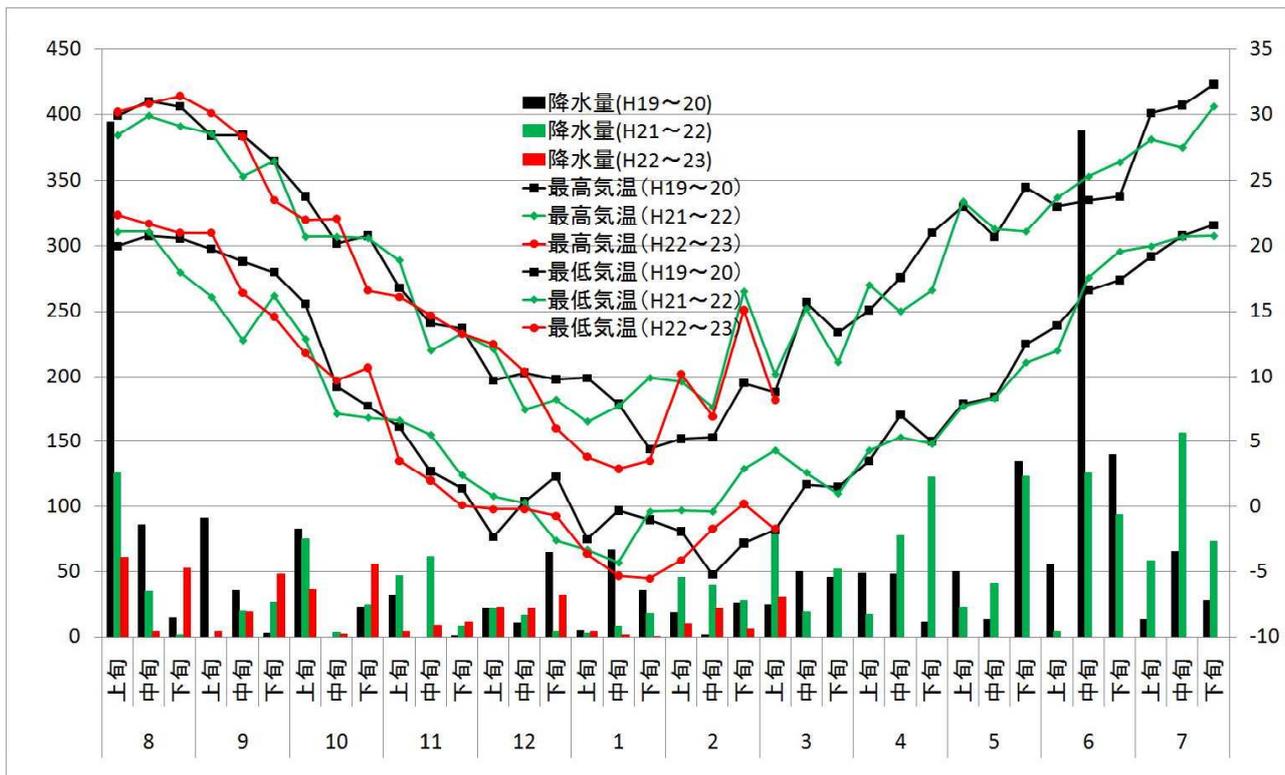
椎茸普及指導情報 第28号

昨秋からケガ等の事故が多発してます。積雪等により作業が遅れているところもありますが、焦らずに十分に注意してください。まさに注意一秒ケガ一発です。

1 単収向上 (1) 気象推移 杵築 標高5m



湯布院町 標高435m



今年は、1月は低温が続きました。低温性品種は「抑制（30日程度）とその後の刺激（低温と水分補給）」が必要です。グラフで示すとおり今年は十分な抑制がかかっていると思われますので低温性品種も発生に期待出来そうです。しかし、芽数が多いためか小葉傾向にあるようです。

今年は特に低温期は最高気温が上がらず、芽切ったしいたけも成長が鈍りました。

ビニール被覆分と無い分でも差が出たようです。

(写真①)

降雨不足や低温が続き生長が止まった状態のきのこが多く小葉香信、小型の冬菇が増加しそうな傾向を示しております。午前中30分～1時間程度の生長散水の実施や夕方～夜間の被覆等で生長を促進し、可能な限り大きくして収穫する必要があります。

また、今年は冬菇系が多いことも予想されますので、香信が取れる品種は、小型の冬菇で採取しないで、中葉の香信程度まで（開かせる。大きくして）採取することも単価を上げるポイントだと思います。

左被覆無し ↓ ↓ 右被覆あり



【写真①ビニール被覆の差】

(1) 腐敗病の発生について



【写真② H22.3.31 大田】



【写真③ H23.1 山香】

「椎茸が生長せずに腐っていく、何だろうか。」という問い合わせがあります。

(写真②、③参照)

成長せずに腐っていく病気“腐敗病”です。シイタケ子実体が褐～黒変し、異臭を放って腐敗します。

県きのこGの研究報告によると、細菌(バクテリア)の感染による病害だということであり、その対策としては

- 1 過去に本病が発生したほどだ木を伏せ込んだ場所に伏せ込まない。
 - 2 害菌や害虫の少ないほどだ木を作る。
 - 3 ほどだ場の衛生管理に注意し、多湿環境にしない。
- ということです。

(2) 第4回東部地区ほどだ場コンクール開催

3月4日に開催しました。

最優秀賞は国東市佐藤さんに決定しました。

(写真④)

出品作品はどれもすばらしいものでした。

第5回東部地区乾椎茸品評会の場でパネル展示します。

シカによる椎茸食害対策についても皆さんそれぞれの工夫を凝らされていました。「下からの進入対策」をしっかりとされていました。

一部をご紹介します。(写真⑤、⑥)



【写真④ 国東町 佐藤さん】



間伐木で下部を結束

漁網併用下に垂らす

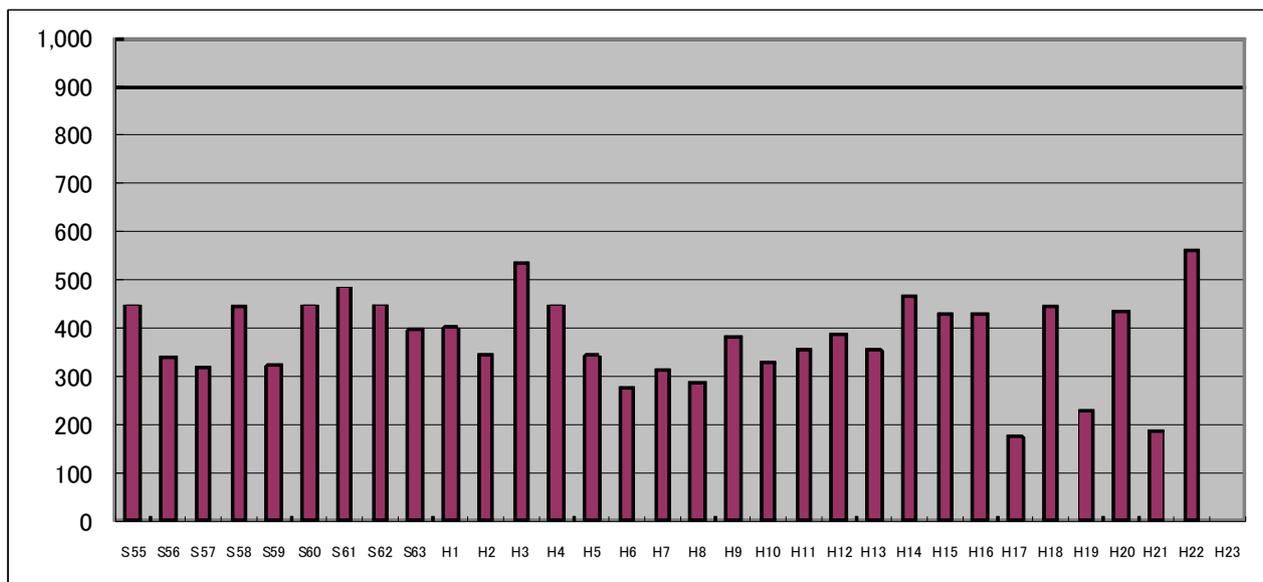
【写真⑤ 武蔵町巴田さん】



【写真⑥ 国見町古森さん】

(3) ほだ木作り

このグラフは、杵築市における昭和 55 年から平成 22 年までのほだ化初期（3～5月）の降水量の推移を示しています。



過去 30 年間で見ると平成 16 年までは概ね 300 ～ 500mm 程度の降雨となっておりますが、平成 17 年以降は極端に少ない年、多い年を繰り返しているようです。

あくまで推測ですが、今年はひょっとしたら少ないかも？かもしれません。

H22 年秋の起木が悪かった人(H20 秋起木、H18 秋起木含む)は、特にほだ化初期の活着を確実にするためにも仮伏せ等の徹底が必要です。

2 単価向上

(1) 第 5 回 東部地区 乾椎茸 椎茸 品評会の開催について

杵築市山香庁舎にて開催が決定しました。

審査 4 月 18 日(月)、表彰式が 4 月 20 日(水)です。

皆さんの出品をお待ちしています。

3 コスト削減



(1) 省エネ乾燥について

湿球制御による省エネ乾燥スケジュールを現地で実証しています。(写真⑦)

台数限定で温度計の貸出もしますので、希望がある方は振興局まで連絡願います。

【写真⑦ 湿球温度計】

4 その他

(1) ステップアップ研修会の開催

管内で新たに始めた人を対象に椎茸農協中央・国東支部と共催で研修会を開催しました(1/28)。

【東部区森林林業活性化協議会主催】。

内容は、乾燥・選別、安全作業と目立てです。全員で 29 名の参加がありました。



大分県東部振興局農山漁村振興部
林業・木材・椎茸班 担当 坂本(国東市エリア)
河野(別府市・杵築市・日出町エリア)
TEL0978-72-0156 FAX0978-72-3697